

あの手この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

第172号 2021年11月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

11月号
2021

ペテルギウス玄関
11月5日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催
2021「第14回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を掲載しています。

インターナショナル賞受賞
エイブリー デンゼル ダリル さん (アメリカ)
大野原小学校 (5年)

タイトル: 「笑顔のために」

メッセージ: スポーツで言葉の通じない外国の人たちとも
仲良くなって笑顔になれるといいなと思いました。

「やまと国際アートフェスタ」は
「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *
の主催で毎年催されています。
*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら「ともに
くらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

お待たせしました！10月25日より
会議室定員は解除されました

★定員

会議室 1 18名まで
会議室 2 27名まで
多目的ルーム 6名まで
※食事の禁止(水分補給は可)
※対人距離は十分確保して下さい

★会議室使用时、必ず行ってください！

- ・「利用者名簿」(記入後、各団体が1ヵ月程度保管)
- ・「施設利用報告書」提出(確認・チェック項目)
- 換気の徹底(1時間単位で窓を開けて下さい)
- 体温記録(体調不良や37.5度以上の人は控えて下さい)
- 入室前の手指消毒、使用後の机椅子等の消毒



しかし、今まで通り「3密を避ける」
感染防止対策(ガイドライン参照)を十分行った
うえでのご利用をお願いいたします

第97回 共育セミナー

ウィズコロナ、ポストコロナ時代の社会貢献活動
その1 青少年、外国人を取り巻く状況と課題



開催
報告

緊急事態宣言は解除されましたが、コロナの収束が見えない中で、コロナ以前に当たり前にやってきたことが、できない現実があると思います。

このような中、現場では、こうやってるよということ活動を団体から伺い、団体間に横ぐしを通すきっかけや希望を見出そうと企画した「共育セミナー」の新しいシリーズです。

第1回は、①若年層が、コロナによって、どのような影響を受けているかを、高校内居場所カフェの運営をされている「NPO法人パノラマ」の小川杏子(きょうこ)さん、②多国籍で多様な外国人が多く永住、定住している本市で、多文化共生の実践を行っている「公益財団法人大和市国際化協会」の石川和友さん、③福祉全般を担い、ボランティアの方の現場に精通されている「大和市社会福祉協議会」の坂上(さかがみ)周平さんの3名の方にスピーカーになっていただき、パネリストも含めて20名の方が参加して、10月16日(土)にオンラインで、パネルディスカッションを開催しました。その様子を当日石川美恵子さんが報告します。



多様な活動がつながり、ピンチをチャンスに
市民活動センターサポーター 石川美恵子



「すべての人をフレームイン！」が合言葉。居場所カフェで働く小川さん！

県立田奈高校と大和東高校で居場所カフェを運営している「NPO法人パノラマ」の小川杏子さんは7カ月の赤ちゃんを抱っこしての参加。オンラインならではのセミナーを実感。生徒たちが安心して自由に過ごせる場としての高校内居場所カフェでは、問題が複雑化する前に生徒たちのつぶやきから早期にSOSをくみ取りサポートをしている。孤立や格差につながる中退や進路未決定の予防などの課題の早期発見、早期支援もface to faceでないとできない。オンライン上では限界があるとも。コロナ禍では、カフェでの飲食の提供ができない。



ボランティアの数を制限。緊急事態宣言中は学校に入れない。継続的な関係がつかれない。「すべての人をフレームイン」という社会的包摂を目指す「パノラマ」の根本である活動が今は十分にできないもどかしさも伝わってきた。

多様な文化背景を持つ外国ルーツの方が参加して、本音トーク

校内居場所カフェボランティアの皆さん 笑顔が素敵

外国人市民サミット
2020年度のテーマはコロナ禍の生活。必要な情報は会社や知り合いから知ることが多く、行政が外国人も利用しやすいものとなるよう意見交換がなされた。

「公益財団法人大和市国際化協会」の石川和友さんは大和市が実施した外国人向けの新型コロナワクチン接種時に9つの言語に対応する通訳を派遣した実績を紹介(別動隊)。コロナ禍で日本語教室の開催中止が多くなったが、ペテルギウス北館での日本語教室は開催していると報告。藤沢市で日本語教室のボランティアをしている参加者から国際化協会の存在が羨ましいとの感想が述べられた。

「大和市社会福祉協議会」の坂上周平さんは、コロナ禍において高齢者の安否確認を訪問から電話に切り替えたことや、コロナ禍でも開催できる企画を立案。お花見の代わりに「さくらフォトコンテスト」を実施したところ、142枚の写真が届き、ポストカードにして桜の写真を多くの市民に届けた。

桜よ届けプロジェクトで桜の写真をも市民に配布した



別の地区では、敬老をお祝いする会食会に代わり「オーケストラによる演奏で敬老をお祝い」を企画。140人の応募があったが、緊急事態宣言下のため、有観客での演奏ができなかったため、演奏したDVDをサロンの場で披露した。できない理由を考えないで、「あきらめない」「収束を待たない」「自分で作り出す」をモットーに今できることは何かを考えて実践する。代替事業などこれまでとは違う事業ができる発想が生まれてきていると、まさに「ピンチはチャンス」を実践していることに希望を感じた。



コロナ禍だからできる事業を開発 オークストラを地域に届ける

TSUBASA's トーク 第1回「大学生の孤独の果てにあるものは？」

① 人間関係・居場所の限られた大学生活

「今の大学はオンライン授業ばかり。」「学生は友達作りに苦労している。」という大学生に対する解りかたのようです。実際の大学生は、コロナ禍でもそれぞれの楽しみを見出し、「今だからできる」生活をしています。…と胸を張って言えればいいのですが、実は僕もコロナ禍の孤立に巻き込まれた側の人間です。

東京都三鷹市にある大学に通う僕は、学校近くのアパートに一人暮らしをしています。実家のある大和から学校までは電車とバス合わせて2時間かかるので、卒業研究の負担を減らすために引っ越したという真面目な動機も伴っています。

引っ越し後の大学生活では、人間関係が限られていました。なぜなら僕の友人には「オンラインの講義しか受けていないから、わざわざ大学に来る必要はない。」「通学が面倒。」と話す人が多いのです。もちろん、研究にアドバイスを下さる先生や同期の学生たちと話すことはありましたが、学生個人の研究が忙しくなるにつれ孤独を感じる時間も増えていきました。

研究に追われた僕の居場所は、実験室、研究林、図書館、アパートの4箇所に限られました。新しく居場所を探すにも、大学から最寄りの駅までバスで移動する必要があり、それが億劫だったからです。

こうして孤立した時間が増えていきました。孤独な感覚は人の潜在的なところに働きかけるようで、普段気に

③ 今この時期を生きるのは、人間だけではないのだ

卒業研究で僕は、学内の森に住む野生動物、アライグマについて調査しています。アライグマは農業や人家などに危害を与え、またその地域に元々いた生き物の住処や食べ物を奪うことから「特定外来生物」に指定されています。

夏休みの必死な調査の結果、アライグマが使われていない学内住宅の屋根裏で生活していることがわかりました。嬉しかったのは、運よく屋根裏で眠るアライグマに出会えたことです！

しかし、僕はそこで「なぜ嬉しかったのか？」と自分の感覚に疑問を持ちました。もちろん、研究成果となる材料を手に入れたことも理由の一つですが、一番は、「今この時期を生きているのは、人間だけではないのだ。」と、実感した瞬間だったからです。

右の写真はアライグマが屋根裏の支柱に頭を擦り付けている様子で、僕は一種のマーキングではないかと思っています。



研究対象のアライグマ



支柱に頭を擦り付ける

TSUBASA's トークでは、サポーター尾畑が日々の生活で感じていることをコラム形式で紹介していきます。市民活動での体験や、大学生活、趣味などフレッシュな内容をお届けします！



ならない人の目にピクピクするようになったり、夜も浅い眠りで夢を鮮明に見るようになったりして、体を上手く休められない日々が続きました。

② 孤立した学生は、どのように環境に適応するのか

孤立した学生は一般的に、どのようにその環境に適応するのでしょうか。

市民活動によって生まれる「居場所」を求めるのか。2次元キャラクターのファンになり、気を逸らすのか。自分が流行りに乗っていること、友達と同じように過ごしていることをSNSで共有し、「自分も同じ場所にいる。」と安心を得るのか。

「オンライン飲み会」のような機会を増やすのか。過去の思い出や未来の想像、または信仰に希望を見出すのか。

こういった依存先は社会的に「より健全な」ものを選ぶべきなのかもしれません。そうすると市民活動による居場所を求めることは、より健康的な態度に思えます。

しかし僕は健全ではなかったようで、昆虫や植物、獣の類に親近感を見出すことで、コロナ禍の孤立を乗り越えてきました。

この行動が見られた日は、空気のこもる屋根裏で、僕が汗だくになりながらカメラを仕掛けた日の夜でした。アライグマが「自分の生活は侵されつつある。」と察知し、匂いを「上書き」していたのかもしれません。もちろん、ただ痒かっただけかもしれないので、本当のところはアライグマに尋ねてみないとわかりません。

こういった観察からも、「野生生物は僕たち人間の支配下で生活しているのではない。」「彼らには彼らなり生活があるのだ。」と感じるようになりました。

アライグマの生き様を理解していくことで、まるで小説の登場人物に人間味を感じ、彼らと一緒に体験したことが自分の中に生きてくるかのように、今を生きるアライグマの物語と一緒にいる気分になれるのです。もちろん彼らは「特定外来生物」なので厄介者ですが。

④ 周りは友達だらけ

僕はこの感覚を、アライグマだけでなく、イチョウの木や、マメコガネという大きさ2センチほどの光沢のある昆虫などにも見出してきました。するとどうでしょう。コロナ禍で感じていた孤立感とは程遠い、周りは友達だらけになってしまいました。

(サポーター 尾畑 翼)



夏の友達「マメコガネ」

FMやまと
77.7 MHz



やまもり☆ホットスクランブル
大和市民活動センターだより
『やまとっこ☆みつけた』

＜出演しました＞ 録音CDが大和市民活動センターにあります。

387回 10/5 (火)「やまと国際オペラ協会(YIOA)」 会長 長谷部 浩士さん 事務局長 長谷部 美由紀さん
「大和に第9を！」を合言葉に2015年4月設立。舞台装置・衣装をはじめポスター・チラシ・チケットまで“手づくり”で頑張りました。現在は60名の合唱会員の他、オーケストラ、ソリスト・ステージクリエイター（作曲家、編曲家等）の総勢110名余りの会員が所属しています。設立から5年！地元に着目したYAMATO ART 100、近場の「Viva VERDI!」や3月12日・13日(10/29)連続公演を「やまと国際オペラ協会合唱団」「やまと国際フィルハーモニー管弦楽団」も定着し、敷居が高いと思「大和シティバレエ」がスタッフやキャストと組んで大和市をおおいに盛り上げます。乞うご期待！オペラを もっともっと 身近に“が活動のスローガン！ 番組では「裏方さんのご苦労話」”長期間このコロナ禍での練習など苦労話が止まりません。～やまとっこ☆みつけた～の再開！スタジオは活気に溢れました。現在のようにご自身がオペラに出演する側に立ってからは様々な工夫をしつつ、オペラの魅力を最適な形で伝えていきたいと活動を続けています。設立以来、本格的なオペラを上演することを目指して活動を続け、来年3月にG.Verdiの歌劇「ドン・カルロ」の上演が決定しました。今回は大和シティバレエの協力を得て日本初のスタイル 5幕 Yamato 版での「ドン・カルロ」の上演という画期的な公演になります。10月29日にはその公演に向けてレクチャーコンサートの上演も予定されています。一般の方や合唱団向けの無料の音楽文化講座の開催に加え、オペラという媒体を通して幅広い分野でいろいろな活動をしている方と繋がることで大和のまちに更にオペラ文化の香りを広げたい。「挑戦に次ぐ挑戦をしています」と長谷部会長は熱く語りました。



388回 10/19 (火)「大和華道協会」 会長 大垣 鳳菜（ほうしゅ）さん
大和華道協会は華道により地域文化興隆に寄与することを目的に1951年10月に設立、現在教授資格を有する先生方14流派・130名ほどが所属する団体です。大垣さんは就任して13年、6代目の会長を務めています。流派を超えた交流を目的に続けられているいけばな諸流展をはじめ、大和市役所本庁舎・市民活動拠点ベテルギウスの花席の設置、グリーンアップセンターで開催される「いけばな展」の他、神奈川県華道展に出瓶するなど多方面で活動しています。11月には創立70周年記念事業として第70回いけばな諸流展が開催されます。**大和華道協会 創立70周年記念事業 第70回いけばな諸流展**
11/27 (土) 28日 (日) 10:00～16:00 大和市文化創造拠点シリウス 1階ギャラリー



助成金情報

2022年度「児童・少年の健全育成助成」 1団体30万～60万円（物品購入資金助成）
ニッセイ財団では、地域活動の一環として定期的・継続的に実施している子どもたちが行う自然体験・生活体験活動、仲間づくりや文化の伝承活動、地域の子育て支援活動に対して都道府県知事のご推薦に基づき助成し、活動の輪を広げてまいります。
期間：11月末日予定※具体的な期日は都道府県担当部門へ
お問合せ：公益財団法人日本生命財団 助成事業部 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル4階
TEL：06-6204-4014 FAX：06-6204-0120 HP：http://nihonseimei-zaidan.or.jp/jidou/02.html



第17期福祉たすけあい基金 総額500万 上限40万の助成
県内で、福祉たすけあいに関わる地域課題を、市民が解決するため非営利な事業・活動の立ち上げ支援を目的とする助成です。特に設立後間もない団体の事業や、既存の団体が新たな課題解決に取り組む新規事業立ち上げを支援します。
期間：12月10日（金）17時必着（Eメール、書留または基金事務所での手渡し）
お問合せ：公益財団法人かながわ生き生き市民基金 TEL：045-620-9044
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F FAX：045-620-9045
E-mail：jimukyoku@yamato-rc.org HP：https://lively-citizens-fund.org/assishow_kikin



60周年記念事業 大和ロータリークラブ市民活動推進助成金
地域の皆様に支えられ佳節を迎えることができた報恩・感謝を体現するため、コロナ禍で貧困や孤立支援、青少年育成など様々な活動をされている個人・団体を支援したいと考え、「大和ロータリークラブ市民活動推進補助金」を実施します。
助成対象：大和市内で貧困や孤立支援、青少年の育成などの活動をしており、公的補助を受けていない個人・団体
助成枠：団体枠50,000円 8団体 個人枠30,000円 5名 期間～12月末日
応募方法：所定の応募用紙による応募（大和ロータリークラブ事務局に提出、又はHPから申し込み）
お問合せ：大和ロータリークラブ事務局まで（月・火・金 10時～16時）TEL：046-263-7926
FAX：046-264-2277 E-mail：jimukyoku@yamato-rc.org HP：https://yamato-rc.org/y60/



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第172号 発行日：2021年11月10日 発行：大和市民活動センター 拠点やまと
大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00> TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日> e-mail:yamato@ar.wakwak.com
〒242-0018 大和市深見西1-2-17 http://www.kyodounokiyoten.com/